

審査会会長からのコメント

今回も「まちづくり」のさまざまな活動から申請をいただくことができました。その熱意や地道な取り組みに、審査員一同頭の下がる思いでした。

今回の特徴として、活動期間 5 年未満の団体の活動を対象とする「スタート支援」の申請数が少し減ったことがあげられます。

この助成金が始まったのが平成 16 年。すでに、延べ 270 ほどの事業に助成がされてきました。そして、「スタート支援」も「事業チャレンジ」もそれぞれ 3 回までとなっていますので、同じ団体が助成金をもらい続けているのではなく、どんどん新しい団体が生まれ、助成金をジャンプ台のひとつとして巣立っていったわけです。東大阪市の市民による自発的で多様なまちづくり活動のすそ野を広げてきたとも言えるでしょう。

そのスタートアップの団体からの申請が減ったということは、もしかしたら新しい団体や活動が生まれる勢いが少し落ちてきたということかもしれません。

しかし、一方では活動期間が 5 年を超える団体からの「事業チャレンジ」の申請はあいかわらず活発ですので、東大阪市のまちづくり団体が全体として卵の段階から次の段階へと発展してきていると考えることもできます。

平成から令和へというタイミングでの今回の助成金の状況は、日本の社会の流れの節目を反映しているのかもしれない。

今回、残念ながら採択に至らなかった申請、減額となった申請もありましたが、それは決してその活動の意義が低いということではありません。市の助成金、つまり公金であるということから、申請の内容がそれにマッチしなかったということなどから判断されたものです。どうかこれからも胸を張って活動を継続していただきたいと思います。

また、採択された申請も、その活動に市民から期待がかけられていると同時に、厳しい目が注がれるということを感じ、緊張感をもって事業を進めていただければと思います。